

【総 説】

思春期から若年成人への喫煙軌道

いずみ
泉のぶ お
信 夫

キーワード：喫煙軌道，喫煙段階，思春期，若年成人，喫煙対策

要 旨

思春期から若年成人の間は、喫煙習慣成立の鍵となる。これまで、非喫煙者と喫煙者が対比され、喫煙の進展も全体を平均する段階として把握されてきた。近年、喫煙軌道の研究から、開始年齢、喫煙強度の進行、危険因子が比較的均一な群が存在し、喫煙防止対策もそれぞれ異なることが判明した。成人での常習喫煙者には 1) 思春期前か早期から急速に進行しヘビーになる群、2) 高校から若年成人に進行し強度はやや弱い群がある。成人で常習者にならない群に 3) 思春期早期から試し喫煙位で経過し、成人する頃ほぼ禁煙する群、4) 高校から若年成人に進行するが20歳代中頃に禁煙する群がある。1)は家庭、学校、社会的に問題を抱え、多面的対応を要する。2)は家庭の保護・監視機能が弱まる年齢に友達の喫煙、宣伝、受験のストレスなどに曝され、法的に許容されることも関連する。依存症になり易い素因も関連しうる。

はじめに

喫煙は近年、百害をもたらす「病」と認識され、その「治療」が保険適応にもなった。世に余りに広まり、法的にも是認されているが、喫煙状況は時代、国、地域、さらには学校の方針でも大きく変わり、対策次第では根絶も不可能ではない¹⁾。

喫煙の根源が、思春期から若年成人にあることは各国で共通し、喫煙防止対策の力点はこの年代

に置かれる。対策を考えるには、まず、実態とその危険因子の把握が欠かせない。日本の若年成人までの喫煙の「頻度」の実態は、前稿で日米を比較しまとめた¹⁾。

次に喫煙開始者の「自然経過」を知る必要がある。開始から常習者に到る経過には、表1の「段階」があり、多くの研究から、友人や両親の喫煙、学業成績不振などの予測因子も把握された²⁾。

しかし、「段階」は極論すれば、対象を喫煙者と非喫煙者に二分し、喫煙者全体の平均的な単一の進行様式をみている。思春期や若年成人の喫煙の開始や段階の移行は個々人で異なり、進行しない場合も禁煙する場合もある。進行速度には年齢

Nobuo IZUMI

出雲市立総合医療センター小児科

連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613